

人権学習展開例〔第2学年〕

1 主 題 トラブルの解決方法について考える

2 教材名

14 さるとかに



3 主題・教材について

子どもたちの生活においては、相手の気持ちを考えずに、或いは、相手の嫌がる気持ちを十分理解できずにかかわることが、トラブルに発展することがある。そこで、この教材では、「さるきち」や「かにたち」の気持ちを考えることで、相手の立場に立って考えることの大切さに気づかせたい。また、トラブルを話し合いによって解決することの大切さにも気づかせたい

（関連教科・領域：国語科、道徳）

4 ねらい

- ・相手の立場に立って感じたり、考えたりすることの大切さに気づく。
- ・不合理に気づき、問題を解決するために協力して行動することの大切さに気づく。

5 指導計画

第1次 石を投げたさるきちと、石を投げられたかにたちの気持ちについて考える。

第2次 かにたちの行動とさるきちの気持ちについて考える。

第3次 さるきちやかにたちに自分自身を重ねて、生活をふり返る。

6 展開例

第1次

○ねらい 石を投げたさるきちと、石を投げられたかにたちの気持ちについて考える。

過程	主な学習活動	指導上の留意点	備考
導入	・題名から、どんな話か考える。	・「さるかに合戦」を思い出す児童がいるかもしれないが、別の話であることを伝える。	
展開	木のぼりをしているさるきちは、どんな気持ちだったのだろう。 ・第1場面（もりの たにまに～）を読み、さるきちの気持ちを考える。 石を投げられたかにたちは、どんな気持ちだったのだろう。 ・第2場面（さあ、たいへん～）を読み、かにたちの気持ちを考える。 ・石投げをやめようとしないうさるきちの気持ちと、そのときのかにたちの気持ちを考える。 ・自分がさるきちやかにたちだったら、どうするのかを発表する。	・「たいくつに になりました」をもとに、木のぼりをしているさるきちが一人ぼっちであることに気づかせる。 ・挿絵とかにたちの言葉をもとに、さるきちが投げた石によって、かにたちがどのようなになっているのかを考えさせる。 ・『なげないで ください』『たのみました』や『こんな ことぐらい』『おもしろがって』という言葉に着目させる。	DVD教材「物語」
まとめ	・さるきちやかにたちの状況を確認する。	・さるきちは、自分のやっていることの重大さに気づいていない、かにたちは、命を失う状況になっている、ということを確認する。	

第2次

○ねらい かにたちの行動とさるきちの気持ちについて考える。

過程	主な学習活動	指導上の留意点	備考
導入	・ 第1 場面（もりの たにまに～）と第2場面（さあ、たいへん～）を読み、前時の学習を思い出す。	・ さるきちがどんなさるだったのか、かにたちがどんな様子だったのかを思い出させる。	DVD教材「物語」
展開	大きな声で言ったかにとそれを聞いたさるきは、どんな気持ちだったのだろう。		DVD教材「物語」
	・ 第3場面（一ぴきの かにが、～）を読んで、大きな声で言ったかにと、やめようとしないうさるきちの気持ちを考える。 ・ 一ぴきのかにがとった行動と前時に自分が考えた行動を比べる。	・ 挿絵のさるきちやかにたちの様子に着目させる。	
	「やめてくれ」と言ったかにたちはどうしたのだろう。		
	・ 第4 場面（「やめて くれ。」～）を読み、かにたちがとった行動を読み取る。 ・ かにたちの気持ちについて考える。	・ 「かにたち」と書かれていることや挿絵から、かにたちがみんなで怒っていることに着目させる。 ・ かにたちの表情の変化や、はさみをふりあげていること、「やめて くれ」と“大きな字”で書かれていることに着目させる。	
	かにたちにはさみをふりあげられたさるきちの気持ちを考えよう。		
	・ さるきちの気持ちを考える。	・ 挿絵の驚いたさるきちの表情から考えさせる。 ・ かにたちの思いや痛みに気づいていなかったことを確認させる。	
	この後、さるきはどのようにするのだろう。		
	・ さるきちが、このあとどうするかを考える。	・ 自分だったらどうするかを考えさせる。	
開	どうすれば、こんなことにならないですんだのだろう。		
	・ かにたちがはさみをふりあげておこるまでに、どうすれば解決できたかを考える。	・ さるきちにとっても、かにたちにとっても、いい解決方法を考えさせる。 ・ 子どもたちの発言は否定せずに受け止める。 ・ 意見交換を通して、考えを深めさせる。	
	かにたちの行動をふり返ろう。		
	・ かにたちがとった行動をふり返る。	・ 勇気を出して、みんなで力を合わせて、解決のために行動することの大切さに気づかせたい。 ・ 暴力ではなく、話し合いで解決することの大切さに気づかせたい。	

第3次

○ねらい さるきちやかにたちに自分自身を重ねて、生活をふり返る。

過程	主な学習活動	指導上の留意点	備考
導入	・ 前時の学習を思い出す。	・ さるきちやかにたちの気持ちを思い出させる。	
展開	自分自身がさるきちだったり、かにたちだったことはないだろうか。 ・ さるきちのような行動をした経験や、かにたちのようにつらい思いをした経験がなかったか、ふり返る。 みんなはそんなときに、どうしたのだろう。 ・ 問題をどのように解決しようとしたかを発表する。 『さるとかに』とわたし」という題で作文を書こう。 ・ さるきちやかにたちの立場に自分を当てはめて作文を書く。	・ なかなか自分の経験を具体的に話せない場合は、無理に話させず、教師がていねいに聞き取る等、配慮する。 ・ うまく解決できたことだけでなく、解決できなかったことも発表させる。 ・ 友だちといっしょになって解決した経験についても発表させる。 ・ さるきちのように友だちの痛みがわからずに傷つけてしまった経験や、かにたちのようにつらい思いをしたり、不合理・矛盾に立ち上がった経験を入れるように助言する。 ・ 書きにくい子どもについては、ていねいに思い出すための声かけをする。	
まとめ	学習をふり返ろう。 ・ 自分で書いた作文を読み直す。	・ 書いた作文をもとに、友だちの痛みがわかることや、力を合わせて問題解決を図ることの大切さを感じ取らせる。	